

J



Canon  
T77

使用說明書

写真を職業とする、いわゆるプロカメラマンと一般の写真を趣味とする写真愛好家との間には「物を見る目」と「物を再現する技法」の2つに差があるといわれています。

「物を見る目」は感覚的なもので機械の入る余地はありませんが「物を再現する技法」は当社の技術を結集すれば、誰にでも可能となるよう解決することができます。

そのために開発したものが、このキヤノン EF です。

初心者には簡単にベテランの味を、ベテランにはその限りない応用によって、写真の深さを味わっていただけることでしょう。

キヤノン EF によって、写真を趣味としたことに喜びを感じまた趣味の広がりをさらに大きくすることができれば、当社にとってこれ以上の喜びはありません。

この使用説明書は基本編と実技解説編に分かれています。基本編ではカメラの扱い方全般を、実技解説編では写真技法への対処法ともいうべき内容を主に説明しています。

※都合により外観デザインの一部を変更することがあります。

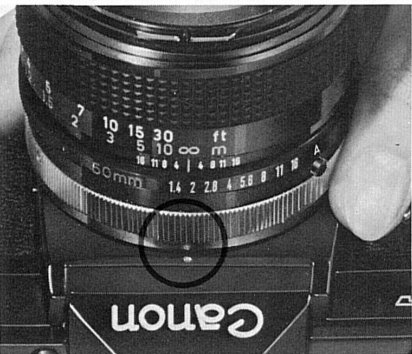
※この製品の保証書は同封されているご愛用者カードと引き換えにお送りいたします。

至急ご愛用者カードに所定の事項をご記入のうえ係宛お送りください。

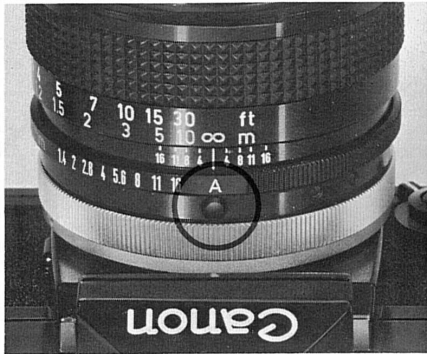


## 撮影の手順

1 レンズを取付ける(13頁)



2 Aマークを合わせる(11頁)

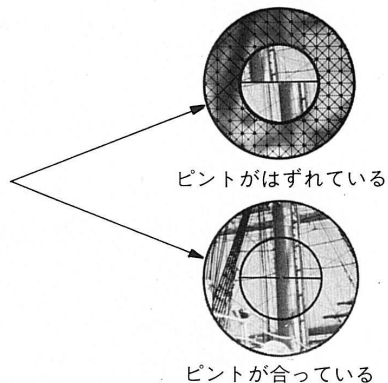
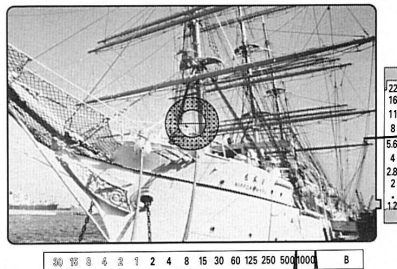


3 メインスイッチをONにする

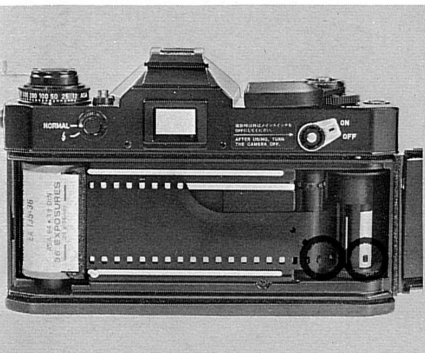


7 構図を決めピントを合わせる(25頁)

- シャッタースピードをきめる
- 絞りを確認する



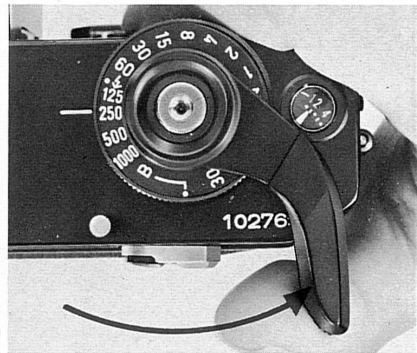
4 フィルムをつめる(19頁)



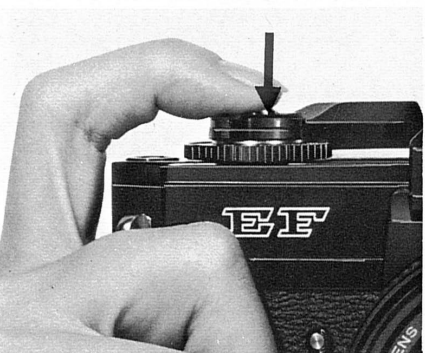
5 ASA 感度をセットする(22頁)



6 レバーを巻上げる



8 シャッターボタンを押す(26頁)



9 撮影後はメインスイッチをOFFにする



## 特 長

### 1 シャッタースピード優先式のAEカメラ

このカメラには、あらかじめ決められたシャッタースピードに対して、絞りが適正值に電子コントロールされる、シャッタースピード優先式のAE方式 (完全自動露出: Automatic Exposure) が採用されています。したがって、良い写真を撮るための条件、すなわちカメラブレの防止はもちろんのこと、速写性を必要とする撮影分野においては大変有利に使用できる条件をそなえています。

### 2 世界一、広範なシャッタースピード

$\frac{1}{1000}$ 秒から30秒まで幅広いシャッタースピードの範囲をもち、しかも高速シャッター側はメカニカル制御、低速シャッター側はエレクトロニクス制御を採用し、誤差の少ない理想的な方法をとっています。

### 3 シリコン フォト セルの採用

明るさを広範囲に、精密に測光するシリコンフォトセルの採用により、EV-2 (ASA 100・F1.4・8秒)~EV18 (F16・ $\frac{1}{1000}$ 秒)まで21段階の測光が可能となりました。

また、応答性の速さは他の追随を許しません。ASA感度セットはASA 12~ASA 3200まで広範囲のフィルムが使用可能です。

### 4 情報集中ファインダー

写真を撮るために必要な情報がファインダーの中に集中配置してありますから撮影に便利です。ファインダーを覗いたまま撮影条件の設定、変更、確認ができます。

### 5 定評あるFDレンズを使用

最高級機 F-1 のために開発したFDレンズ群を使用し、レンズの持つ機能を完全に発揮させます。

## 6 多重露光が可能

簡単な操作で確実な多重露光ができます。

## 7 ストロボ撮影が自動

キヤノン独自のキャッツ(CATS: Canon Auto Tuning System)によって、フラッシュオートが大変便利に、簡単になっています。距離合わせをするだけでAE撮影ができます。

## 8 電池の入手が容易

特殊な電池の使用を避け、ごく一般に使用されている信頼度の高いHD水銀電池を採用しました。どこでも電池が入手でき、しかも経済的です。

## 9 空写し操作不要

フィルム装填時に行なう空写し操作を必要としません。

## 10 電池が無くても使用できる安全設計

電池がなくなった場合でも $\frac{1}{1000}$ 秒から $\frac{1}{2}$ 秒ま

でシャッターは確実に作動し、高級機としての性能が確保されます。

## 11 すぐれた温度特性

IC回路により温度特性が特にすぐれ、 $-20^{\circ}\text{C}$   $\sim +60^{\circ}\text{C}$ まで性能が維持できます。

## 12 作動シグナルの組込み

長時間露光中およびバッテリーチェック時はランプの点滅により外部からの確認ができます。この発光には発光ダイオードが使われています。

## 目 次

●必ず覚えてください	9	手動絞り	50
●基本編		被写界深度	54
準備	13	露出記憶ボタン	58
カメラの構え方	18	多重露出	59
撮影	19	ミラーアップ	61
●実技・解説編		赤外撮影	62
機構の解説	29	キャノンEFの主要性能	64
シャッタースピード優先	34	附属品	66
AEの解除	36	カメラの手入れと保管	69
絞込み測光	37		
CATS	39		
一般のフラッシュ撮影	42		
セルフタイマー	43		
低照度領域の撮影	44		
レンズ交換	46		
レンズの絞り, 自動絞り	47		
レンズ各部の説明	48		



## 必ず覚えてください。

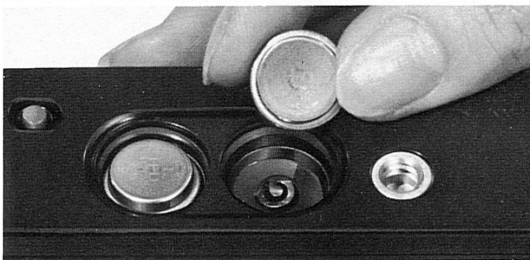
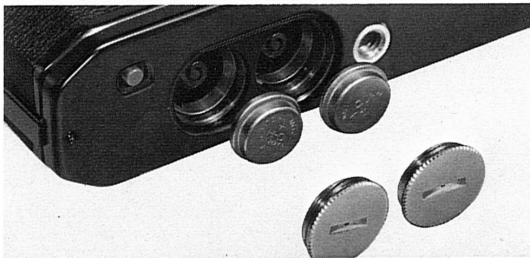
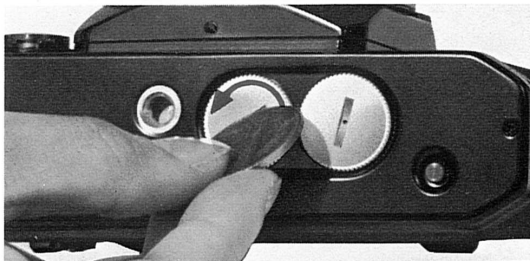
使用手順の中に入るべきものですが、この項目はE Fの使用上最も重要で、基本的な事項ですから、はじめにご説明します。

### 1 電池を入れます。

このカメラは電池によってAE機構がはたります。まず電池を入れてください。

カメラの底部に2カ所の水銀電池室蓋（各部分名称③7）があります。蓋は硬貨などではずし、それぞれに電池一コを入れて蓋をします。

- 電池を入れる方向を間違えないように写真通りに入れてください。
- カメラを長期間使用しないときは、電池は必ず抜いておいてください。
- 電池交換は、同一銘柄のものを買いもつめ2コ同時に行なってください。
- 新しい水銀電池をお求めの時は、必ず使用済の水銀電池を持参し、カメラ店または電気店で現品と引換えのうえお求めください。



## 2 メインスイッチを入れます。

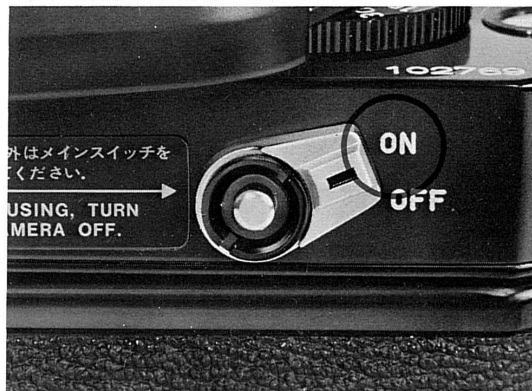
メインスイッチ (各部名称⑳) はカメラを使用する時だけ ON にします。ON にすると巻上げレバー (各部名称㉑) がわずかに飛び出して巻上げ作動 OK の状態になります。OFF のときはシャッターボタン (各部名称㉒) もロックされて押せません。

- カメラを使用しない場合はメインスイッチを OFF にし、巻上げレバーを押込んでください。使用しないときも ON にしてあると、露出計に常時電流を送っていますから電池が消耗してしまいます。

OFF にしないでカメラをケースに収納すると、電池の消耗度が最も激しくなります。

## 3 AE 撮影のときは、必ず NORMAL にします。

キャッツ切換えスイッチ (各部名称㉓) を AE



撮影のときは、必ず NORMAL にします。

⚡マークはストロボ(キヤノンスピードライト133D)を使用するときだけです。これを間違えると正常な露出が得られません。

#### 4 レンズの絞りリングをAマークにします。

Aマークにセットするのはレンズ取付けの前後いずれでもかまいません。(レンズの取付け方は13頁参照)

レンズのプリセット絞りリング(各部名称⑱)にあるAEロックピン(各部名称⑲)を押しながらAマーク(各部名称⑳)が指標の位置にくるまで絞りリングを回します。

- このAマークが指標の位置にある時だけAE撮影が行なわれます。





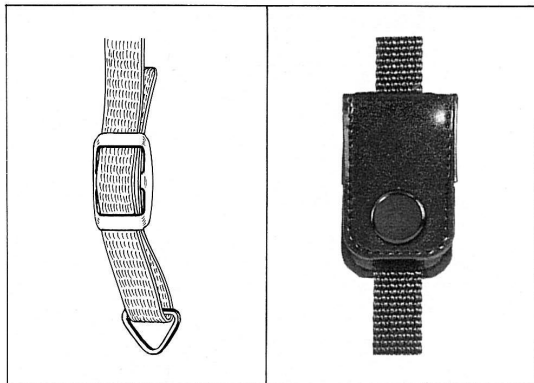
# 基本編

## 準備

### 1 ストラップ（吊紐）

カメラにまずストラップを取付けます。  
ストラップは吊環にストラップの先端を通し、  
図のように折り込みます。

肩から下げ易い位置まで長さを調節します。  
ストラップには予備電池を入れておくケース  
がついています。活用してください。  
カメラを取扱うときは安全な場所で行なって  
ください。



### 2 レンズの取付け

レンズ底蓋は、バヨネットリングを矢印方向  
に回してはずしてください。取付ける場合は  
逆の要領で行なってください。



カメラの Canon の彫刻の下にある赤点（各部名称⑧）とバヨネットリング（各部名称⑬）上の赤点とを合わせ、レンズを強く押込みながら、バヨネットリングを右回しに回してカメラにレンズを取付けます。

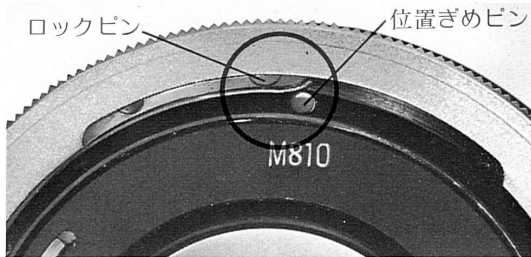
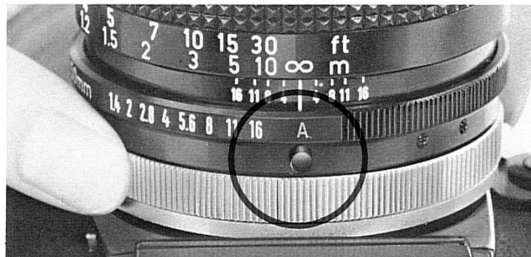
このあと A マークになっていることを確認してください。

ダストキャップをはずすとバヨネットリングはロックされ、バヨネットリングも動かさない安全機構になっています。

絞り羽根の作動をチェックする場合などは、位置ぎめピンの上にあるマウントロックピンを、細いピンで押しながら、バヨネットリングを回した状態で、作動させてください。

### 3 レンズキャップ

レンズキャップ（レンズ蓋）は両側のつまみを押し込みながら取りはずします。



#### 4 電池の装填

カメラの底の部分に電池を入れる所が2ヵ所ありますから硬貨などを利用して蓋をはずします。水銀電池の小さな突起のある面(⊖側)を内側にして、蓋をします。

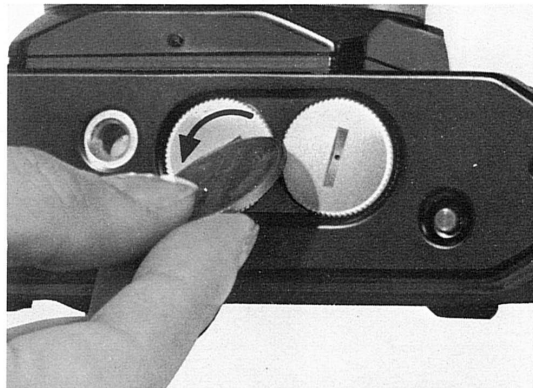
水銀電池の入れる方向を間違えると蓋はしまりません。

カメラを使用しない時、電池は必ず抜きとっておいてください。

##### 新しい水銀電池をお求めの際のお願い

現在有機水銀による公害が問題になっていますが、カメラに使用している水銀は無機水銀で、直接的な害はありません。また密封されているため、外部に水銀が出ることもありません。しかし特殊な条件下では有機化する可能性もありますので、新しい水銀電池をお求めの際は、使用済みの水銀電池と引き換えのうえお求めください。

絶対に捨てないようお願いいたします。



## 5 バッテリーチェック

新品の電池を入れた場合でも、一応バッテリーチェックを行なってください。カメラ底部にあるバッテリーチェックボタン(各部名称⑳)を押します。

このボタンを押してバッテリーチェッカー兼長時間露出指示ランプ(各部名称㉑)が点滅する場合は、その電池の使用は可能です。電圧がなくなっている場合は押し続けても点滅しません。

その場合は電池の交換をします。

電池交換は、同一銘柄のものを2コ買いもとめ同時に行なってください。

バッテリーチェックはカメラの使用前に必ず行なって、電圧の有無を確かめる習慣をつけてください。電池はどこでも入手できて経済的なHD型水銀電池です(JIS：日本工業規格)。外国製ではMALLORY PX625、EVEREDY EPX625がこれに相当します。





## 6 巻上げレバーの取扱い

メインスイッチを ON にすると巻上げレバーはわずかに飛びだし、フィルムの巻上げが可能となります。

カメラを使用しない時はメインスイッチを OFF にし、巻上げレバーを押込んでメインスイッチが OFF になっていることを確認します。

巻上げレバーはメインスイッチが OFF の状態でないと格納できません。

また、格納の確認のためにメインスイッチ・オン・シグナル(各部名称⑤)がついています。

- メインスイッチを OFF にすると、フィルムの巻上げはできません。無理に巻上げると故障の原因となります。また OFF になっているとシャッターボタンは押せない安全機構になっています。

- メインスイッチが ON のままカメラをケースに収納したり、暗い場所に放置しておくとき水銀電池の消耗が最も激しくなります。

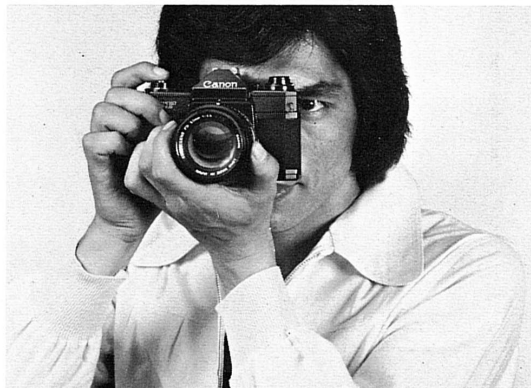


## カメラの構え方

一般にピントが悪いと言われる写真の多くは、シャッターを押した瞬間にカメラが動く、いわゆる手ぶれが原因です。

手ぶれを防ぐにはしっかりした構え方をしなければなりません。構え方はフィルムを入れる前に、練習をして慣れてください。構え方は

1. できるだけ深くカメラを握りますが、握り方に余裕をもってください。
2. カメラを頬または額にあてて固定します。
3. 左手はカメラの支えにしますので、ひじ（上膊部）をできるだけ体に押しつけて安定させます。
4. フィルム巻上げは右手の親指、シャッターボタンは右手人差指の腹の部分を使います。シャッターボタンはできるだけ静かに押します。（シャッターボタンの押し加減がカメラブレに大きく左右します）
5. 木や壁があるときは寄りかかるなどして利用するのも良策です。



## 撮 影

### 1 フィルムを入れます。

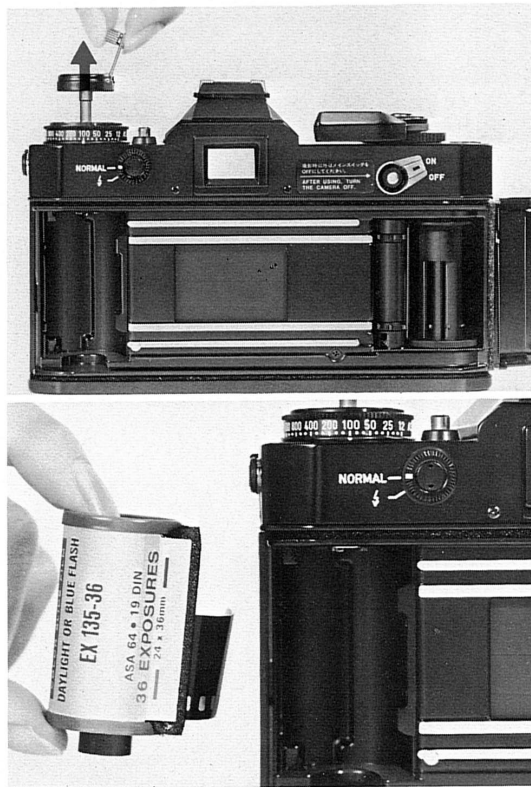
使用するフィルムは市販の日中装填用パトローネ入り 35mm 判フィルムです。12枚・20枚・36枚撮りがあります。

#### ●裏蓋を開きます。

巻戻しノブ(各部名称⑭)を上引張ると裏蓋が浮き上がりますから開いてください。巻戻しノブは一杯に引上げた状態にしておきます。

#### ●フィルムをつめます。

パトローネの軸の長い方をカメラの下側になるようにパトローネ室につめます。巻戻しノブを押下げてパトローネがはずれないようにします。



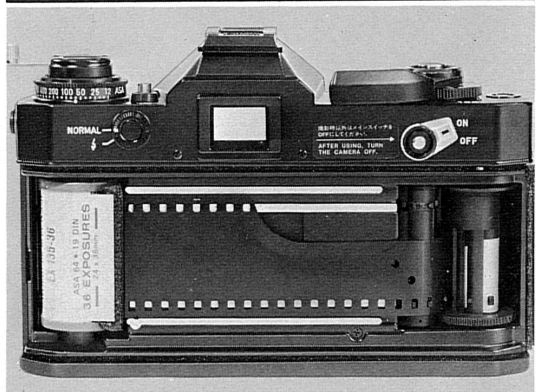
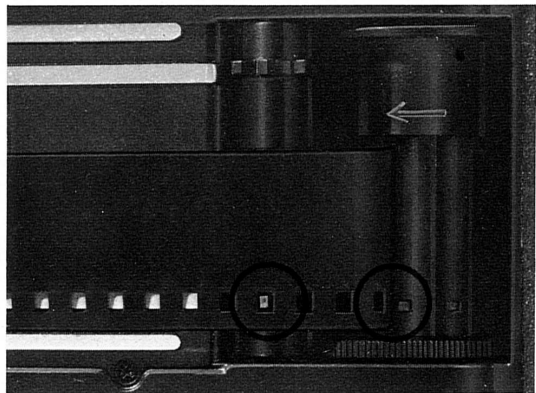
- フィルムを少し引出し、先端を巻取リスピールの溝に差込み、巻上げレバーでフィルムを巻上げます。

巻上げレバーは止まるまで回してください。

小さざみに巻上げることはできません。

フィルムを巻上げる時にフィルムのパーフォレーション(フィルムの両側に並んでいる穴)が巻取リスピールにある爪とスプロケットの歯に掛かっていることを確認します。

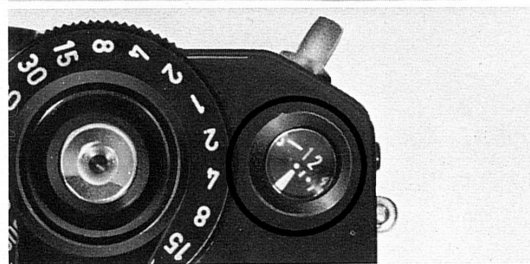
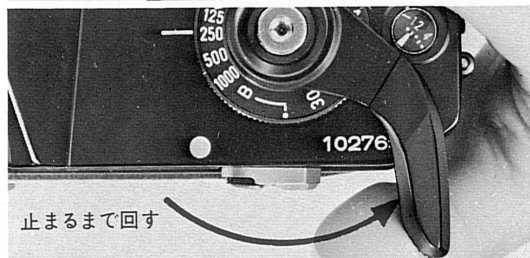
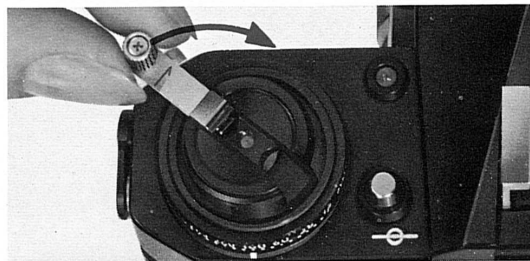
- フィルムにたるみがなく、パトローネが浮き上がっていないことを確かめてから蓋を閉めます。



- 巻戻しクランクを軽く矢印の方へ止るまで回します。これはパトローネ内のフィルムのたるみを取るためです。
- 巻上げレバーでフィルムを巻上げます。レバーは一回で一杯巻上げてください。巻上げができなくなるまで(3回)繰返してください。この間巻戻しノブが回転していればフィルムは正しく装填されています。

通常のカメラで行なう空写し操作はこのEFでは必要ありません。巻上げレバーが動かなくなれば、撮影準備完了です。この時フィルムカウンター(各部名称①)は1を示しています。フィルムカウンターは1枚撮影し、1回巻上げる毎に1目盛前進します。

フィルム装填は直射日光のあたらない屋内や木陰で行ないます。回りに日陰のない場合は、太陽を背に自分の陰で行なってください。



## 2 フィルム感度(ASA)をセットします。

フィルムの装填が終わったらすぐ、そのフィルムのASA感度をカメラにセットします。

巻戻しノブの下側にあるフィルム感度セットリング(各部名称⑮)をつまみ上げるとリングを回転させることができます。

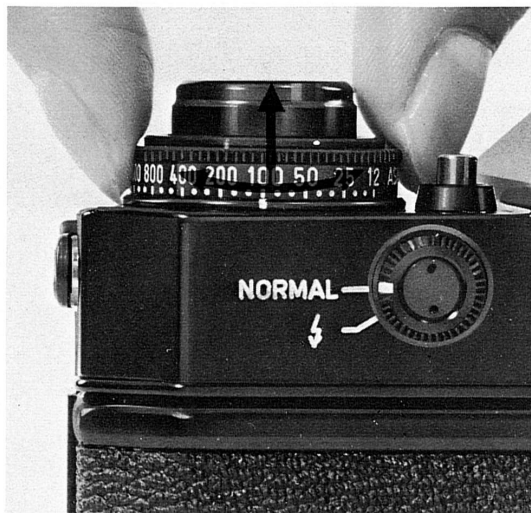
フィルムの箱には必ず「ASA」と記入してありますので、その数字と同じ数字を感度セットリングの指標にセットします。

フィルム感度とは、フィルムが光に感ずる速さを数字にしたもので、国内のフィルムではASA 100が一番多く使われています。

この感度セットリングの数値(使用できるフィルム感度)は次の表の通りです。

ASA	12	•	25	•	50	•	100	•	200	•	•
	(16)	(20)	(32)	(40)	(64)	(80)	(125)	(160)	(250)	(320)	
	400	•	800	•	1600	•	3200				
	(500)	(640)	(1000)	(1250)	(2000)	(2500)					

(中間の点はカッコ内の数値に相当します)



フィルム感度のセットはカメラの露出決定の基本となるものですから間違いのないよう確実にセットしてください。

**3 レンズの絞りリングがAマークであること  
キャッツ切換えスイッチがNORMALである  
ことを確認します。**

この操作は最初に行なったことですが、もう一度確認してください。

このカメラを取扱う上で大変重要な事柄です。使用中も時折り確かめてください。

**4 シャッタースピードを決めます。**

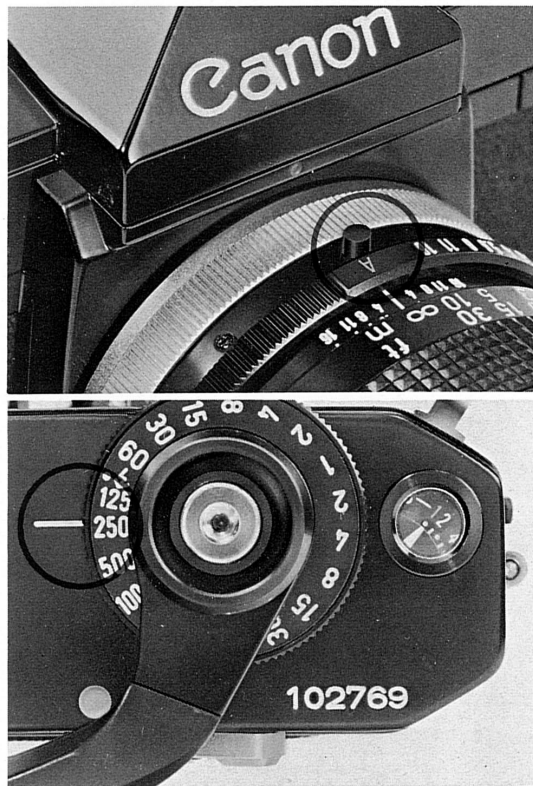
シャッターダイヤル(各部名称②)を回してシャッタースピードを調節します。

このシャッタースピードは写したいもの(被写体)の動きの速さ、明るさなどに左右されますが、慣れていない方は一般的な次の数値にしてください。

(曇の天候または)  $\frac{1}{125}$  ~  $\frac{1}{500}$  (晴天または動  
(動きの遅いもの) (動きの速いもの)

(室内)  $\frac{1}{60}$  ~  $\frac{1}{125}$

$\frac{1}{30}$ 秒以下のシャッタースピードでは、手ぶれが起りますので、三脚使用かストロボ撮影(39



頁参照)をおすすめします。

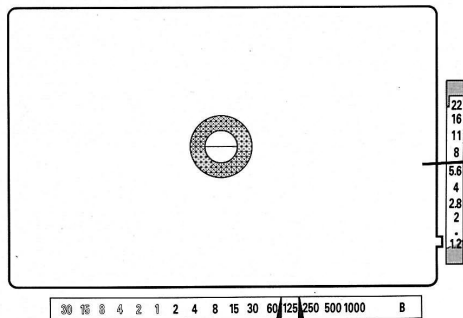
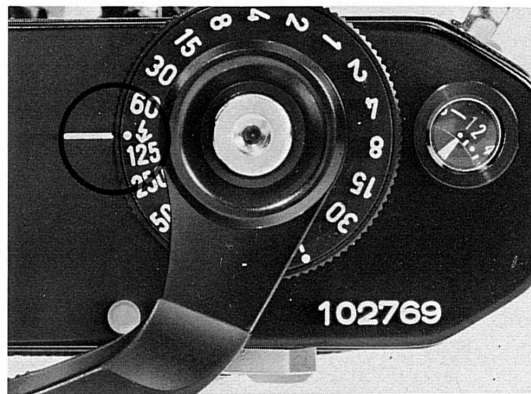
ファインダー接眼部(各部名称③①)からのぞいて見えるファインダー内下側のシャッタースピード表示窓にシャッターダイヤルでセットした数値が枠で囲まれてます。そのシャッタースピードに対応した絞りが右側の針で示されます。カメラを写すものに向けたときこの針(メーター指針)が上・下端の赤枠内に入るようでしたら、そのシャッタースピードは不適當ですので、シャッターダイヤルを回してメーター指針が上下の赤枠の間に位置するよう調節してください。

最小絞り数値は常時F22となっていますので、F16の最小絞り値をもつレンズを使用した場合は注意してください。

シャッタースピード目盛はクリックの位置で使用します。

$\frac{1}{250}$ 秒は $\cdot\frac{1}{4}$ の所に合わせてください。

これはストロボ用X接点と共用です。



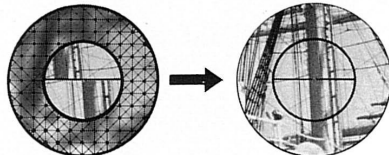
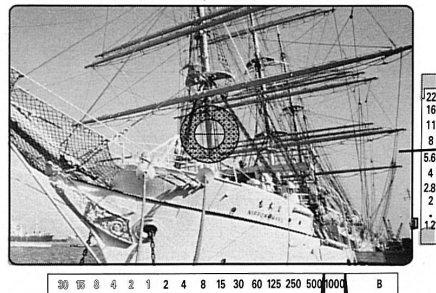
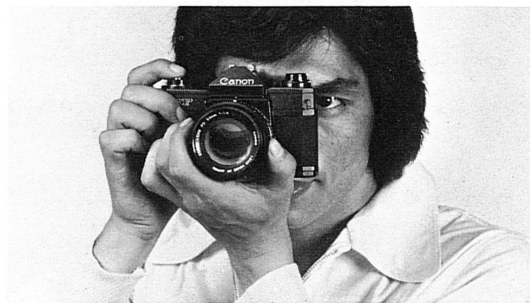


## 5 ファインダーを覗きピントを合わせます。

ファインダーを覗きフォーカシングリング(各部名称⑳)を回し、円形内でピントを合わせます。

ピント合わせはマイクロスプリットプリズムを採用しています。中央の円がスプリット式、その外側の円がプリズム式です。スプリット式は上下像が一致すればピントの合った状態、プリズム式は網目模様のくずれがなく画像が一番鮮明に見えればピントの合った状態です。またピント合わせはこの丸い範囲内だけでなくファインダー内全体で合わせることができます。この場合は被写体が一番鮮明に見えればピントの合った状態です。

- 逆光撮影の時には特にレンズフードをつけることをおすすめします。



ピントがはずれている      ピントが合っている

## 6 シャッターボタンを静かに押します。

シャッタースピード優先のカメラですから、絞りはその時点に合った条件の値を自動的にカメラが決めます。

## 7 メインスイッチをOFFにします。

続けて撮影しない時はメインスイッチをOFFにします。

このカメラに装填してある電池はONにしたまま放置した場合、条件によっては数日でなくなります。できる限り撮影寸前にONにし直後にOFFにするよう習慣づけてください。スイッチがONである限り、レンズキャップをしても電池の消耗は防げません。



## 8 フィルムの巻戻し

撮影枚数はフィルムカウンターに表われます。装填したフィルムが全部撮影されると巻上げはできなくなりますから、フィルムを巻戻します。

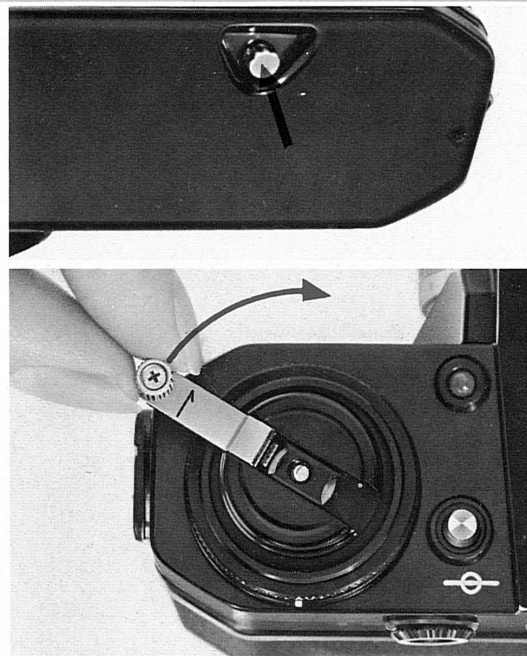
操作方法は、カメラ底部にある巻戻しボタン(各部名称③⑤)を押し、巻戻しクラックを矢印の方向に回すと巻戻せます。

巻戻し抵抗が軽くなり、巻戻しボタンの回転が止まったら裏蓋を開いてフィルムを取出します。

以上の8項目の手順を覚えていただければ、写真に初めての方でもキヤノン EF によって立派な写真を撮影することができます。

一通りの撮影方法をご理解いただけましたら、この EF をより効果的に、かつ発展的にご使用いただけるよう、次頁からの実技解説編をお読みください。

フィルムの巻戻しをしないうちは絶対に裏蓋を開けないよう注意してください。





# 実技解説編

## 機構の解説

### 1 ファインダー情報

ファインダーを覗くと視野中央に距離計，視野外下部にシャッタースピード情報，視野外右側に絞り情報があります。

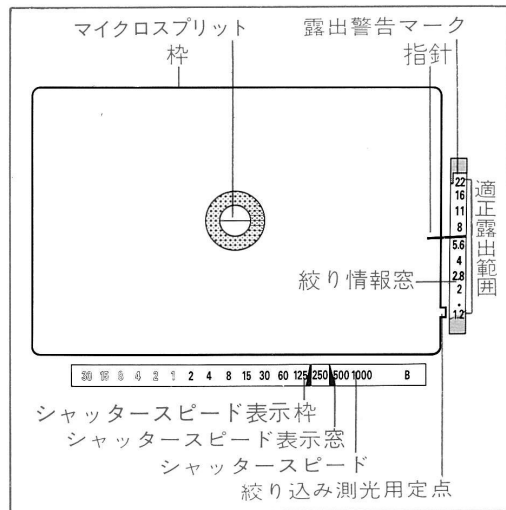
中央のマイクロスプリット距離計以外は視野内に入らないよう，すっきり整理してファインダー本来の姿に近づけています。

シャッタースピード情報はシャッターダイヤルと同じ数値を $\infty$ 形指針で示します。したがってファインダーを覗きながらシャッタースピードの調節ができるわけです。

絞り情報はFDレンズを取付けるとレンズの開放信号ピンによって絞り情報窓の絞り数値表示板が移動し，正常の絞り位置を示します。

したがってF値の異なるレンズを交換しても自動的に絞り数値は変更されます。

レンズをはずした状態またはFLレンズなど開放信号ピンの付いていないレンズを取付けた際には正しい絞り表示は得られません。絞り情報窓にてている絞り数値とは無関係に絞込み測光用定点によって測光してください。(絞込み測光方式参照P 37)



## 2 シャッター

EFのシャッターは上下走行式メタルフォーカルブレーションシャッターを採用しています。シャッター制御方式はB・ $\frac{1}{1000}$ ～ $\frac{1}{2}$ 秒の高速側がメカニカル制御方式、1～30秒の低速側がエレクトロニク制御方式となっており、最高の精度を有効に保つことができます。

とくに $\frac{1}{1000}$ ～ $\frac{1}{2}$ 秒のメカニカル制御部分は、電池が使えなくなった場合でもAEを解除(レンズのAマークをはずす)すれば、手動絞り撮影ができます。

1～30秒のエレクトロニク制御の場合、シャッターリリース中バッテリーチェックランプ(各部名称⑬)が点滅します。

このバッテリーチェックランプには発光ダイオードが使用されています。



このバッテリーチェックランプは大変鋭敏な回路をもつため、何らかの電氣的接触（たとえばスピードライト着脱時、スイッチ類切換え時、電池着脱時など）のさい点灯する場合がありますが故障ではありません。

またこのカメラはシャッタースピード優先方式を採用していますからカメラブレを最少限に食い止めます。

カメラに慣れてくると、撮影するときにセットしたシャッタースピードが、どの程度ブレに対処できるかを瞬間的に判断することができるようになるため、シャッターチャンス逃がすことなく、ブレのない写真を作ることができます。

動きの速い被写体、明暗の変化の激しい被写体の追求には、この特長はますます発揮されますから、速写性、機動性を必要とするさいの撮影には最適のカメラといえます。

FD200mm F4 S.C. 使用1/1000秒 AE撮影 ASA400



### 3 露出決定機構

#### ● シリコン フォト セル

受光素子としてEFはシリコンフォトセルを使用しています。

これは従来のCdSとは異なった新しい受光素子で、CdSの15EV段階に比べて21EV段階と広い測光範囲をもち、明るさの変化に対する応答性もCdSに比べて数倍の速さをもつ特長があります。

また、優れた増幅器の新開発によって極微出力のシリコンフォトセルを使用することができたことも見逃がすことができません。

#### ● シリコン フォト セルの位置

シリコンフォトセルはファインダー接眼部に近接して配置されています。

画面内における測光感度分布は、中心横広がり分布した中央部重点の平均測光方式となっています。

#### ● 測光範囲

このEFの測光範囲は、EV-2(ASA100・F1.4・8秒)よりEV 18 (ASA 100・F 16・ $\frac{1}{1000}$ 秒)ですが、EV - 2の明るさは一眼レフのファインダーで測距できるほぼ限界です。したがってファインダーで測距できる被写体は必ず適正露出で撮影できるという大きな特長をもっています。

また応答の速さにおいては、通常の撮影では瞬時、微光量下でも測距している間にメーター指針が安定します。

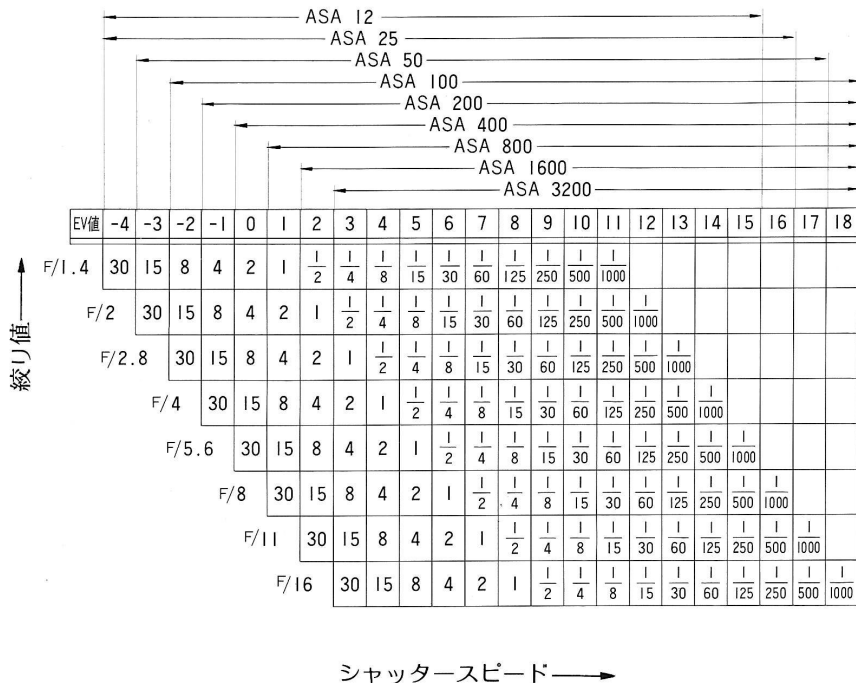
#### ● 露出警告

ファインダー右側の絞り表示窓には上下に赤枠を設定し、不適正露出の場合に指針が赤枠内に入って警告します。

● 微光量下ではASA感度と明るさの組み合わせによってはEV-3以下などの露出計測定能力外で赤枠内に入らないことがあります。



# EV 値



キヤノン EF は FD 50mm F 1.4 レンズを使用した場合フィルム感度によって次のように連動する測光範囲をもっています。

ASA	連動範囲
12	EV -4 ~ 15
⋮	
25	EV -4 ~ 16
⋮	
50	EV -3 ~ 17
⋮	
100	EV -2 ~ 18
⋮	
200	EV -1 ~ 18
⋮	
400	EV 0 ~ 18
⋮	
800	EV 1 ~ 18
⋮	
1600	EV 2 ~ 18
⋮	
3200	EV 3 ~ 18

EV 値とはシャッタースピードと絞り値の組合せによる露出量の値で、フィルム感度と外光の強さによってフィルムに与えられる露光量がきまってきます。

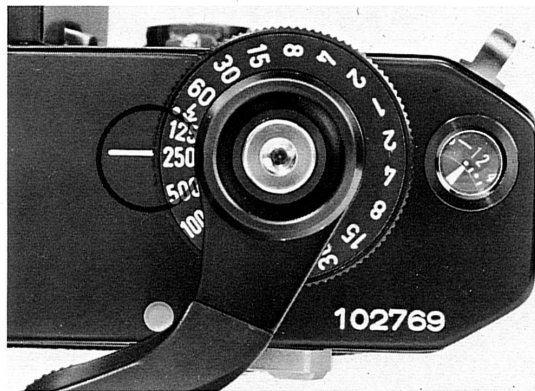
## シャッタースピード優先

特長の項でも記してありますが、シャッタースピード優先はベテランになればなるほど、活用範囲が広い方式といえます。

迅速・正確をモットーとするスナップ写真などはその代表的なもので、EFのシャッタースピード優先自動露出は撮影者のプレに対する知識と相まって、決定的瞬間を記録し易くしました。スナップをする場合、あらかじめシャッタースピードを $\frac{1}{250}$ ~ $\frac{1}{500}$ 秒位にセットしておけば、特に暗い部分でなければほとんど間違いなく適正な露出が得られますし、スナップの場合、ほとんどが広角系のレンズを使用しますので、容易にスナップが楽しめるわけです。

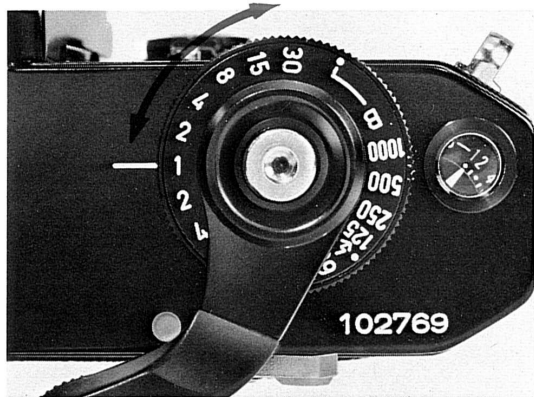
速い動きのスポーツ、動物、乗物などもシャッタースピードの決定が作品の質を左右する主要因ですから、この要因の選択が作者にゆだねられているということは、作者の意図を作品に反映することのできるカメラといえるわけです。

1~30秒の低速シャッターを使用するような暗



い撮影条件では、バッテリーチェックランプが赤く点滅してシャッターが作動中であることを知らせます。

測光範囲がEV-2まで有効ということは、超高感度の微光量測光用のブースターが組込まれていると同じことで、ネオンや夜間撮影に特殊なカンや経験を必要としなくなりました。



## AE の解除

AEの解除とはAマークを解除して手動で絞りをきめて撮影することです。

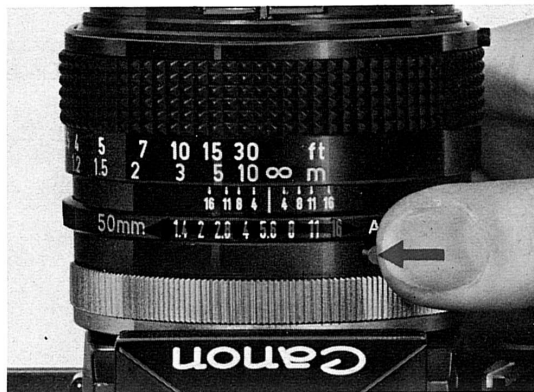
解除する場合はレンズのAEロックピンを押しながら絞りリングを回します。

これによりEFは読取り式のTTL露出計内蔵カメラとなります。

手動による使い方は絞り表示窓の指針が示している絞り数値を読取り、絞りリングを回して同じ絞り目盛にセットすれば、その時点の適正露出が得られます。

つまりカメラ自体が単独露出計の役割を果たすわけです。

露出量を自由に調節できるので逆光時や多重露出時などに使用できます。

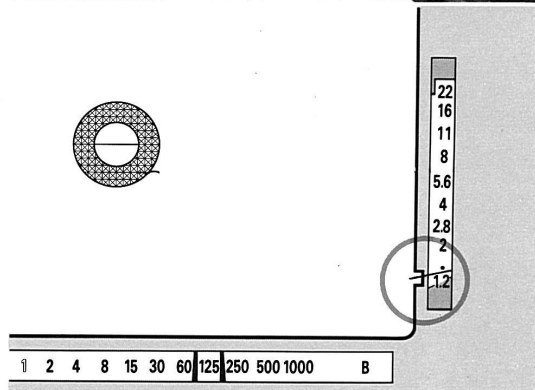
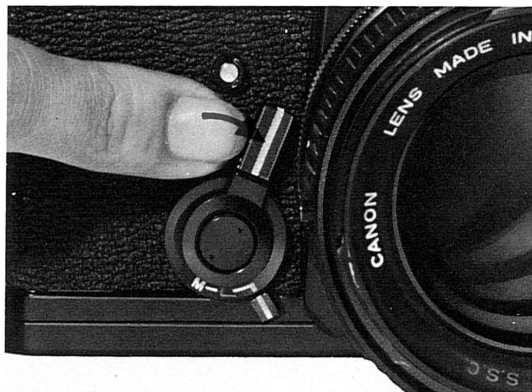


## 絞り込み測光

F LレンズやペローズFLにFDレンズを併用する場合は開放信号ピンがないために絞り表示窓の各絞り値は正しい値にセットされません。このような時には絞り込み測光で露出値の決定を行いません。

絞り込み測光の操作手順は次の通りです。

1. Aマークを解除します。
2. ファインダーを覗き、構図を決定しピントを合わせます。
3. 絞り込み測光レバー（セルフタイマー兼用・各部名称㉞）を内側に倒します。
4. 絞り情報窓の下部にある切込みにメーター指針がくるように絞りリングを回して調節します。（絞りリングだけで調節しきれない時はシャッターダイヤルも併用して調節します）
5. 絞り込み測光とはレンズの絞りが絞込まれた状態での測光ですから、ファインダーはその絞り値に比例して暗くなります。
6. 切込みの中心にメーター指針がきたときが適



正露出です。

7. 絞込み測光レバーは指を離すと元に戻ります。連続して使用する場合は絞込み測光レバーの下にあるロックレバーをLに回せば指を離してもそのまま絞込み測光レバーは回定されません。ロックレバー(各部名称②6)を戻せば絞りは開放になります。
8. TSレンズやフィッシュアイ7.5mmなどの手動絞りのレンズを使用するときは、測光レバーを倒さずに絞リリングの操作だけで指針を切込みに合わせれば適正露出値が得られます。

● A E撮影にするときは、Aマークにセットし直すことを忘れないでください。

A Eの解除にしる絞込み測光にしる露出を決定する必要がある場合は、メインスイッチがONの位置になれば露出計は作動しません。

普通メインスイッチをOFFにした時にはファインダー内のメーター指針は上方赤枠内にはね上っていますが、シャッタースピードとASA感度



の組合わせによってはメーター指針が情報窓内に出てくることがあります。

例えばASA 100の場合Bの時F11付近に、 $\frac{1}{1000}$ 秒の時F22付近にメーター指針が固定されます。

F Dレンズを使用して、絞込み測光をしますと設計上誤差がでますので、必ず開放測光で行なってください。

## CATS (キャッツ)

このEFは直結式の専用ストロボ、キヤノンスピードライト133Dとフラッシュオートリングの併用により、ピントを合わせる操作だけでフラッシュ撮影ができます。面倒な計算は不要です。これをCanon Auto Tuning System略してキャッツと呼んでいます。

このキャッツに使用できるレンズはFD 50mm F1.4, F1.8, FD35mm F2, F3.5の4本です。フラッシュオートリングからは距離変化を、スピードライト133Dからはコンデンサーの充電状態を信号としてカメラに与え、メーター指針を振らせますから、ストロボ撮影がAE撮影同様の手軽さで行なえる、きわめて便利なものです。使用手順は

1. スピードライト133Dをアクセサリシュー（各部名称⑩）に取付けます。
2. フラッシュオートリングをレンズに取付け、コードをスピードライト133Dに差込みます。フラッシュオートリングは使用するレンズに



より、A2(FD50mm F1.8S.C., FD35mm F2 S.S.C., FD35mm F3.5S.C.用)とB2(FD50mm F1.4S.S.C., FD35mm F2S.S.C., FD35mm F3.5S.C.用)があります。





- ボディの後側にあるCATS切換えスイッチ(各部名称⑩)をより $\frac{1}{2}$ マークにセットします。
- シャッタースピードを $\frac{1}{2}$ /125にセットします。
- メインスイッチがONになっていることを確認します。
- スピードライト133DのスイッチをAUTOにし、被写体にピントを合わせてシャッターを押します。露出はカメラが決定します。
- ピント合わせをした時、メーター指針が絞り情報窓の上下にある赤枠内に入った場合は、近づくか遠のくかしてメーター指針が絞り数値内になるように調節してください。切換えスイッチがNORMAL位置では、距離およびコンデンサー充電信号が電流計に流れていないために、キャッツは同調しません。

- $\frac{1}{2}$ マークの撮影時にもメインスイッチはONにしておきます。しかしAE撮影のための露出回路は断たれています。
- キャッツ撮影時には、シャッターダイヤルが $\frac{1}{2}$ /125から移動していないことを確かめてください。キャッツは $\frac{1}{2}$ /125のとき適正露光となるように設計されています。これを間違えると写りません。
- キャッツ切換えスイッチの $\frac{1}{2}$ マークは、メインスイッチをOFFの状態にしても、2コの電池の片方を使用しており、性能に影響を及ぼしますので、メインスイッチをOFFにするときには必ず $\frac{1}{2}$ マークもNORMALにもどしてください。

## 一般のフラッシュ撮影

フラッシュやストロボ撮影はキャッツのみでなく一般の方法(NORMAL)でも行なえます。

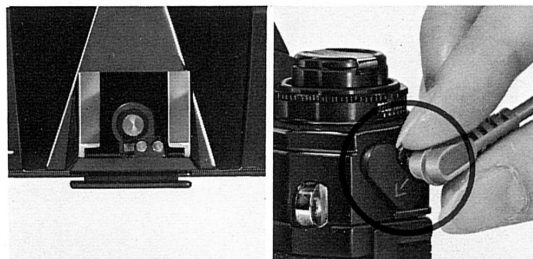
ストロボの接点はアクセサリシューの直結接点の他にボディ側面に感電防止カバーの付いた差込みソケット(フラッシュターミナル㊟の内側)があります。

ストロボコードを差込むときはカバーを押下げて差込み、コードを抜くとカバーは元の位置に戻ります。

このカバーを押下げるとアクセサリシューの直結接点は自動的に切れますので、2つのストロボ(両接点)を使用したときはソケット側のストロボが発光し、アクセサリシュー側のストロボは発光しません。

E Fのフラッシュ撮影時の同調シャッタースピードは次の表の通りです。

一般のフラッシュ撮影の場合はキャッツ切換えスイッチは、 $\frac{1}{2}$ マークでもNORMAL位置でも差しつかえありません。



速度		$\frac{1}{250}$	$\frac{1}{125}$	$\frac{1}{60}$	$\frac{1}{30}$	$\frac{1}{15}$
フラッシュ	FP	×	×	×	△	○
	M MF	×	×	×	△	○
ストロボ		×	○	○	○	○

(△印はバルブのバラツキにより多少露出ムラのでることもあります)

もちろんA E撮影ではありませんので、Aマークははずします。

ストロボまたはフラッシュ撮影についての露出のきめ方などはストロボの使用書に従ってください。

## セルフタイマー

撮影者自身も画面に写りたいときなど、たとえば記念写真、自画像などに使用します。

アクセサリシューについているファインダーカバーを引抜き、ファインダーにかぶせファインダー部からの逆入光を防ぎます。

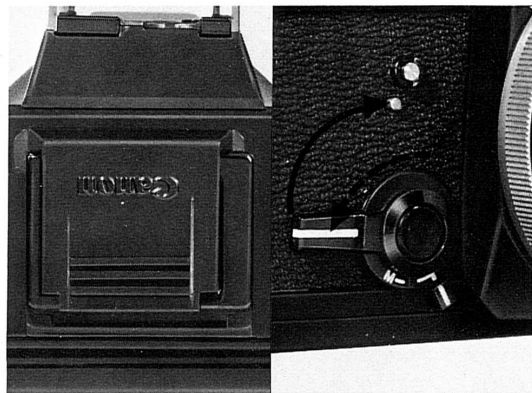
絞込み測光レバーがセルフタイマーレバーと兼用になっています。

このレバーの上にあるレバーロック解除ボタン(各部名称Ⓢ)を押してカメラ正面より見て左回しに止まるまで回します。ついでシャッターボタンを押せば約10秒後に自動的にシャッターが切れて露光され、元の位置より少し手前で止まります。使用後は元の位置に押戻してください。このセルフタイマーはスローシャッターを使用するさいのリリースの代用としても利用できますが1秒以上の長時間にシャッターダイヤルをセットしてセルフタイマーを使用した場合、シャッターボタンを押した時点から発光ダイオードが点滅しはじめます。

セルフタイマーの場合、シャッターボタンを押した瞬間の露出値で撮影されます。

シャッターボタンを押すときには、絶対にレンズの前に立って押すことは避けてください。

ファインダーを覗き、構図、ピントを合わせたのち、ファインダーカバーをかぶせ、カメラの後側からシャッターボタンを押すのが正しい手順です。



## 低照度領域の撮影

EFの測光範囲がEV -2からEV 18と、他のカメラに比べて非常に広範囲であることは前に述べましたが、とくに低照度領域を測光するエレクトロニク制御の部分、つまり1秒~30秒の測光領域をもつことは、他のカメラがアクセサリとして使用するブースター(微光量測定装置)を内蔵しているということです。

月光下の夜景がEV -1であるといわれており、EV -2まで測光できることは、実質的にファインダーで測距することのできる明るさの限界といえます。

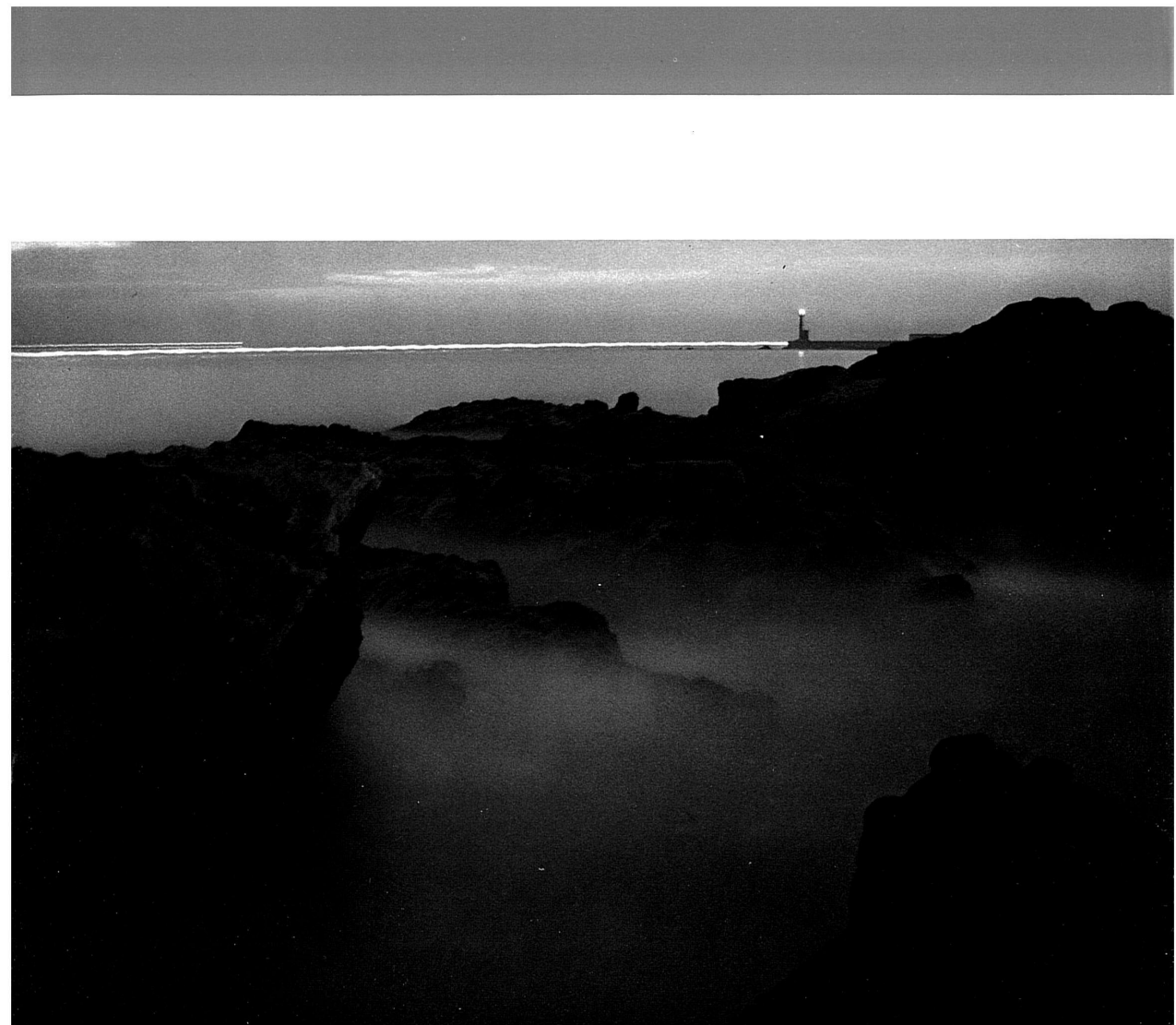
したがってEFのファインダーで見えるものはすべてAE撮影が可能といえます。

もちろん1秒~30秒のような長時間の撮影は三脚、複写台等でカメラを動かさないようにすることが必要です。

また、シャッターを押すとシャッター作動中はバッテリーチェックランプ(発光ダイオード)が点滅し、カメラから離れた場所からでもシャッ

ター作動の確認ができます。

測光を含めた操作方法は明るい場所でのAE撮影と全く同じで、誰にでも簡単に行なえます。低照度の撮影は、夜間撮影、顕微鏡撮影、ペローズやエクステンションチューブなどの中間チューブ類を多用したときなどで、単独露出計やカンなどではつかみ難い条件が多く、特殊分野に属するこれらの撮影に絶対有利といえます。



## レンズ交換

このカメラはキヤノンF-1, FTbなどでご好評を頂いている全FDレンズが使用可能なことはもとより、FLレンズ群も使用できます。

FDレンズ群, FLレンズ群だけでも50本以上のレンズ交換が可能です。

レンズ交換の際に注意することは、FDレンズをカメラからはばす時にバヨネットリングとAEロックピンを同時に押えて一緒に回わさないことです。一緒に回わすとはずしたレンズはAEが解除された状態になります。

どのレンズをつけるにしても、交換したレンズが A マークにセットされていることを必ず確認してください。

絞込み測光レバーがロックされていないことを確かめてからレンズ交換をしてください。

ロックした状態でレンズ交換を行なうと自動絞りが正常に作動しません。

初めて交換レンズをお求めになる方は、どんなレンズをそろえてよいか迷うことがあります。50mmの標準レンズをお持ちの場合、スナップをする人には24mmか28mm、ポートレート撮影を好む方には100mmか135mmをおすすめします。交換レンズを3本以上お持ちの方はもう一台のボディを持つことによって、3本のレンズが3倍にも4倍にも活用できます。

## レンズの絞り

絞りはシャッターと同じく光量を調節するためのものです。

プリセット絞りリングを回すと絞りの大きさを自由に変えることができます（レンズを取りはずした状態では絞りを作動させることはできませんが作動させる場合は14ページを参照してください）

レンズの明るさ（開放F値）はプリセット絞りリング上の一番小さい数字をとって呼ばれ、数字が大きくなるほど暗くなります。目盛数字が一段大きくなるごとに明るさは半分になります。また絞りは目盛と目盛の間も使用できます。FDレンズでは中間、つまり半絞り位置にクリックストップを設けています。

レンズによっては開放F値と次の絞りとの間が半分にならないものもあります。

絞り目盛と露光量の比率はF2を規準として次の通りです。

（絞り値）	12	14	18	2	28	35	4	56	8	11	16	22
（露光比）	3	2	1 $\frac{1}{4}$	1	$\frac{1}{2}$	$\frac{1}{3}$	$\frac{1}{4}$	$\frac{1}{8}$	$\frac{1}{16}$	$\frac{1}{32}$	$\frac{1}{64}$	$\frac{1}{128}$

## 自動絞り

FDレンズはプリセット絞りリングを回しても常に明るいファインダー視野を見ることが出来ます。シャッターを切った瞬間だけ適正絞り値まで絞りが絞込まれます。そしてシャッターが切れ終ると、再び全開して明るいファインダーに戻る、自動絞り構造をもっています。

## レンズ各部の説明

### ●絞り信号レバー

自動絞りのプリセット絞り値をカメラ側に伝達するレバーで、プリセット絞り値と1対1の動き量を持ちます。このレバーはバヨネットリングを取り付け位置に回すと作動する状態にセットされる安全装置付きです。

### ●開放信号ピン

各レンズの絞り開放値の伝達ピンで、レンズ交換により開放F値が変わった場合でも、開放測光の誤差補正がレンズ装着時に自動的に行なわれます。

### ●自動絞りレバー

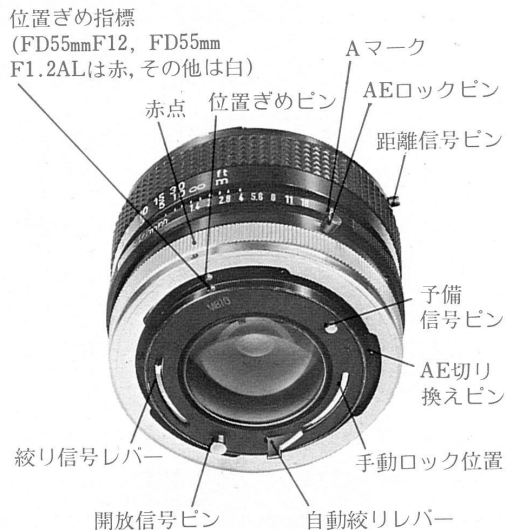
カメラと連動して、絞り数値位置まで絞り込む連動レバーです。手動ロック位置にクランプして手動絞りとなります。

### ●AEロックピン

レンズの絞りがAマークから不用意に動かな

いようにセットする安全ピンです。

E FはAマークにセットしないと適正露出は得られません。





### ● A E切り換えピン

プリセット絞リリングをAマークにセットすると出てくるピンでE Fに取付けてA E撮影をする場合に使用します。

### ● 予備信号ピン

F DレンズとF Lレンズ判別ピンですがE Fには関係ありません。システムアクセサリー開発のための予備ピンです。

#### 《距離目盛》

距離目盛はピントを合わせた被写体フィルム面との距離を示すもので普通の撮影には必要ありませんが、被写界深度を知る場合や赤外撮影、あるいはガイドナンバーを使用するフラッシュ撮影などには必要となります。

目盛は1桁数字の距離では、その文字の中心、2桁数字では2つの文字の間、3桁数字では、中央文字の中心がそれぞれ正しい目盛位置です。



## 手動絞り

1. レンズとボディの間にアクセサリーをはさんで撮影する場合、普通は自動絞りが使えませんが手動絞りにします。セットの仕方はレンズをはずし、後部の自動絞りレバーを反時計方向に一杯に回してロックします。この状態でボディに取付け、プリセット絞りリングを回すと絞り羽根が開閉します。ロックを解除する場合は自動絞りレバーを少し押しぎみに戻します。

また、この手動ロックを利用すれば、測光レバーを持たないF Xなどのキャノン一眼レフカメラに取付けて、手動絞り撮影が行えます。

2. 手動絞りロックレバーを持つレンズでは、自動絞りレバーを矢印方向に回し、手動絞りロックレバーを(L)位置へ動かします。

この状態でボディに取付け、プリセット絞りリングを回転させると絞り羽根が開閉します。解除する場合は手動絞りロックレバーを白点の方へ動かします。

一般FDレンズの手動絞り操作



自動絞りレバー

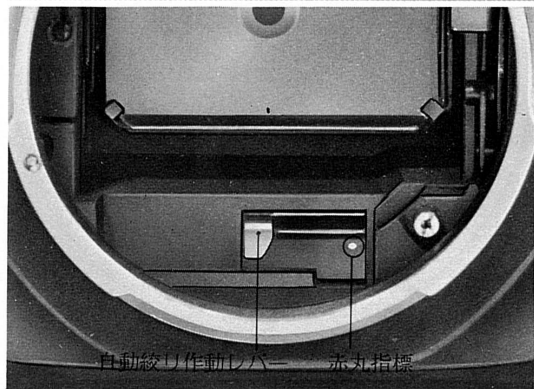
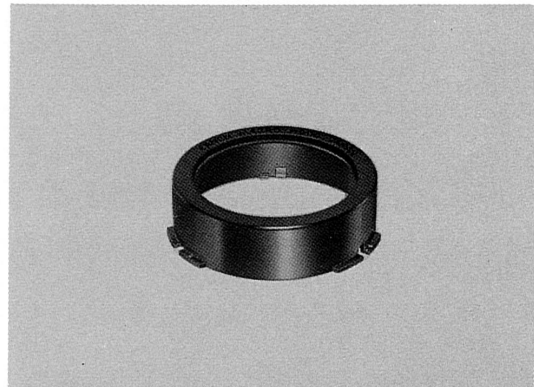
手動絞りロックレバーを持つレンズの手動絞り操作



手動絞りロックレバー

※このタイプのレンズはキヤノンフレックス系列のカメラには使用できません。

**マクロフォトカプラーへ取付ける際の手動絞り複写，拡大撮影などでレンズを逆向きにしてマクロフォトカプラーへ取付けて使用する場合は，レンズの自動絞りレバーを手動絞り操作状態にロックした上で，マクロフォトカプラーに付属しているマクロフードをレンズのマウント部にはめ込み，バヨネットリングをマウント取付け位置まで回してください。**



## 絞り込み撮影

このカメラはシャープな解像力で評判の高い、FDレンズを使用して開放測光撮影を行います。同時にFLレンズ、Rレンズを使用して絞り込み測光撮影が可能です。

レンズはボディ前面の絞り込み測光レバーを倒した状態で取付けると、正常に作動しませんのでご注意ください。

このときボディの連動部に不動作を知らせる、赤丸指標が見え注意を促します。

また交換するレンズは、手動絞りになっていないことを確認してください。手動絞りになっているとレンズは正常に作動しません。

ボディから取りはずしたレンズは各種信号ピンのある方を上向きにして置いてください。信号ピンのある方を上向きにして置くと、各種の信号ピンやレンズを損傷することがあります。また、交換したレンズは必ず底蓋とキャップをして、これらのピンを保護してください。



FD35mm F2 S. S. C. 1/125秒 AE撮影 ASA32 O1フィルター使用▶



## 被写界深度

レンズの性質のひとつに被写界深度があります。ある1点にピントを合わせても、その前後に多少ピントの合う部分があります。これを被写界深度といいます。

被写界深度は、おおよそ手前(カメラ側)が $\frac{1}{3}$ 、後側が $\frac{2}{3}$ の比率になり、次の3つの条件によって左右されます。

1. 絞り値を絞れば絞るほど、被写界深度は深くなります。

1本のレンズについていえば、開放絞り値の時が、最も浅い被写界深度となります。

2. 絞り値が一定の場合、被写体の距離が遠いほど被写界深度が深くなります。したがってどのレンズも至近距離での撮影の場合が最も浅くなります。

3. レンズの種類別では、広角レンズの方が望遠レンズより被写界深度が深い性質があります。

以上の3条件を総合した場合、望遠レンズを使用して、余り絞れないときの近距離撮影ほどピ

ントをしっかり合せる必要があり、逆にそのときが一番ボケを利用することができるわけです。被写体を強調するために、バックの風景をボカして整理する必要がある場合とか、製品写真、女性を美しく見せるアップのポートレートなどによく利用します。

被写界深度の深さを利用する場合には、街や子供達のスナップ写真の雰囲気や情景の描写に使用したり、数列に並んだ集合写真などの前列から後列までの全域を明確に写す場合に利用します。

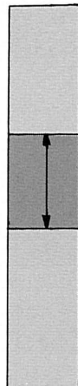
記念写真の場合は前列と後列の間の手前 $\frac{1}{3}$ の列にピントを合わせ、カメラブレや被写体ブレが起きない程度のシャッタースピード(大体 $\frac{1}{60}$ 秒以上)にし、絞りをできるだけ絞って撮影します。



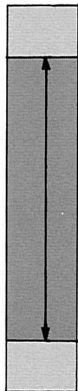
F4に絞った場合



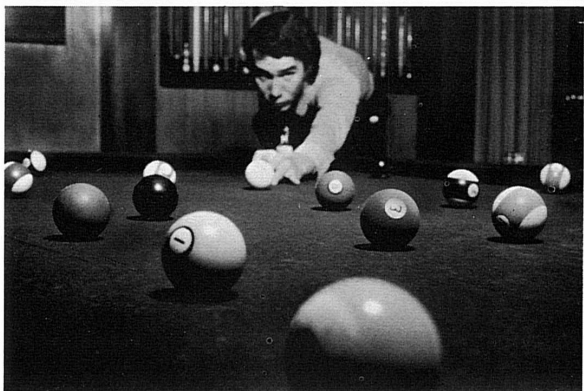
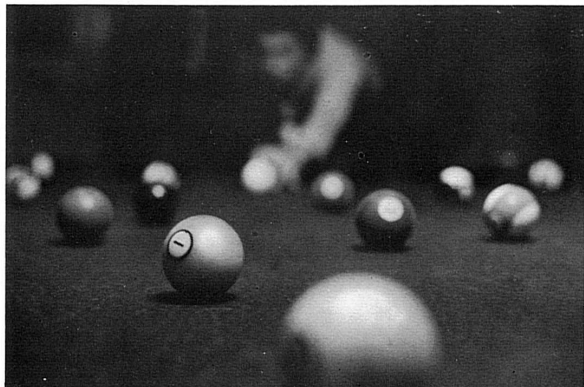
F16に絞った場合



ピントの合う範囲



ピントの合う範囲



### 被写界深度の確認方法

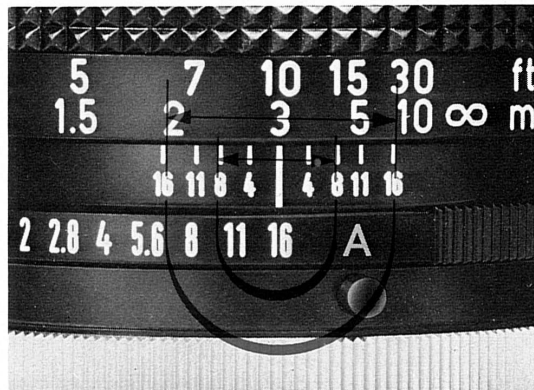
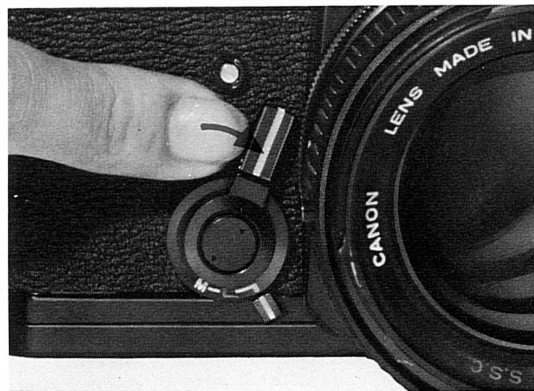
フィルム巻上げ後に深度を確認します。A E撮影を解除しファインダー内に表示された絞り値を、レンズのプリセット絞りリング上にセットし、測光レバーを倒せば深度が確認できます。Aマークのままであれば被写界深度は確認できません。FLレンズの場合も同様に測光レバーを倒すだけで深度が確認できます。

### 被写界深度目盛の読み方

被写界深度はレンズの目盛でも確認することができます。

例 (F 8 に絞った場合)

50mm レンズを使用し 3 m の距離にある被写体にピントを合わせ、F 8 の絞りを使うとすれば、図のように距離指針の両側にある 8 の目盛に対応する距離目盛(約 2.3m と 4.3m)を読みとります。この 2.3m と 4.3m の間が被写界深度となります。





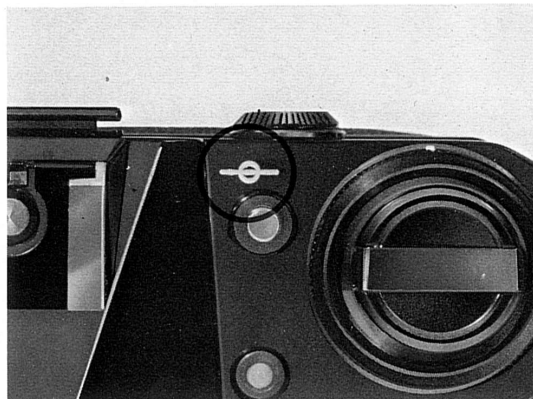
ます。

例 (F 16 に絞った場合)

同じ条件下で F 16 に絞れば 1.9m から 7.6m まで鮮明に写すことができます。

#### フィルム位置マーク

レンズの距離目盛は、フィルム位置から測定した距離が目盛ってあります。したがって、実測によってピントを合わせる場合にはフィルム位置マークから測って、その距離をレンズ目盛にうつします。一般撮影にはあまり必要がなく、接写、複写時に、アクセサリーの使用表から実測してカメラ位置をきめるのに主として利用されます。



## 露出記憶ボタン

逆光・雪景色、構図内に特に明るい輝点をもつ被写体の場合は、AE撮影ではファインダーで見える範囲の特に明るい部分に露出が合いますから、でき上がった写真は全体に露出不足となります。

このようなときは露出記憶ボタンを用います。記憶機構は露出記憶ボタン(各部名称⑫)を押すと、その位置で絞り値を固定しカメラをどこへ向けてもボタンを押し続けている間は露出は変化しません。たとえば、写真のように背景の明るい人物を写す場合

1. 構図をきめてます。
2. 人物がカメラの中心になるようにカメラを振り記憶装置ボタンを押して絞りの動きを止めます。
3. 1.の構図にもどし、露出記憶ボタンを押したままシャッターボタンを押します。



FD100mm F2.8S.S.C. 使用1/125秒AE撮影ASA32▶

## 多重露出

同一フィルム上に何種類かの被写体或いは同じ被写体を何回か写込むことを多重露出といいます。このカメラは多重露出が簡単に行なえます。花火の撮影や合成写真的な味を出したい時に活用してください。また商品広告用写真，教育用スライドのタイトル用写真などには欠かせない機構です。

1. 1回目の露出(シャッターを切る)を行ないます。
2. メインスイッチの軸にある多重露出ボタン(各部名称㊸)を押したまま巻上げレバーで巻上げます。この操作によってフィルムが巻上げられることなくシャッターのみがチャージされて、2回目の露出が可能となります。
3. シャッターボタンを押して2回目の露出を行ないます。

この繰返しによって何回でも同一画面に異なった被写体を写込むことができます。この間フィルムカウンターは動きません。

露出回数は憶えておきます。

ただし、同一画面に何回も露出するわけですから露出値の補正が必要となります。

この補正はフィルム感度セツトリングによって調節する方法とAE解除による方法とがあります。感度セツトリングで調節する場合は多重露出をする回数をフィルムのASA感度に掛けた数値をフィルム感度セツトリングにセツトします。たとえば4重露出をする場合、ASA 100のフィルムを使用していれば $100 \times 4 = 400$ となり、こ



の400を感度セッティングにセットすればよいこととなります。これは簡単な被写体（平均的明るさの被写体）の場合であって、黒っぽいものと白っぽいものが混じり合った被写体では多少の経験が必要になります。

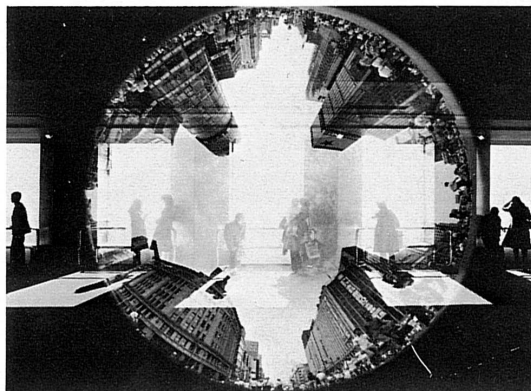
夜空に開く花火などの撮影はこの感度セッティングの調節は不要で、そのまま多重露出をして差しつかえありません。

多重露出の場合、重ねる被写体の配置が作品の良否を決定します。

また、重ねる被写体は一般に黒の部分の多い被写体から順に撮影すると良好な結果が得られるようです。

全体に白っぽい画面または大変明るい画面の場合は多重露出には適していません。

●カメラの機構上は何回撮影してもフィルムは動かないで画面は一致するようになっていますがフィルムのたるみなど微妙な現象によってわずかな誤差がでることもあります。



第一露出 室内FD35mm F3.5S.C.使用 1/60秒 F8

第二露出 戸外 フィッシュアイ7.5mm F5.6S.S.C. 1/250秒 F8

## ミラーアップ

一般の撮影に用いる機会はほとんどありませんが、ごく小さなショックもきらう、顕微鏡写真や拡大複写撮影などのために、ミラーを上げっぱなしにしておく装置があります。

ミラーを上げることによって作動部分はシャッターだけとなり、撮影時のショックが大変小さくなります。

絞込み測光レバーを絞込みの方向に押しながら絞込みロックレバー（ミラーロック兼用・各部名称㊸）をMにするとミラーは上がりっぱなしになります。露出値はミラーアップする前に測り、マニュアル撮影で行ないます。

ミラーアップをしてから露出を変更するようになるときは、あらためてミラーを下ろして測光しなおしてください。



## 赤外撮影

レンズのフォーカシング指標の横（焦点深度目盛の間）に小さな赤点があります。これが赤外マークです。

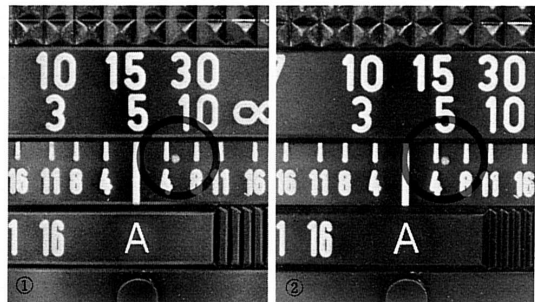
つまり赤外マークはこの補正をした赤外線写真撮影専用のフォーカシング指標です。赤外用黒白フィルム（赤フィルター併用）を使用して撮影するときは、ファインダーを通してピント合わせをしても実際に赤外線が結ぶピント面とはズラしています。そのため補正が必要です。

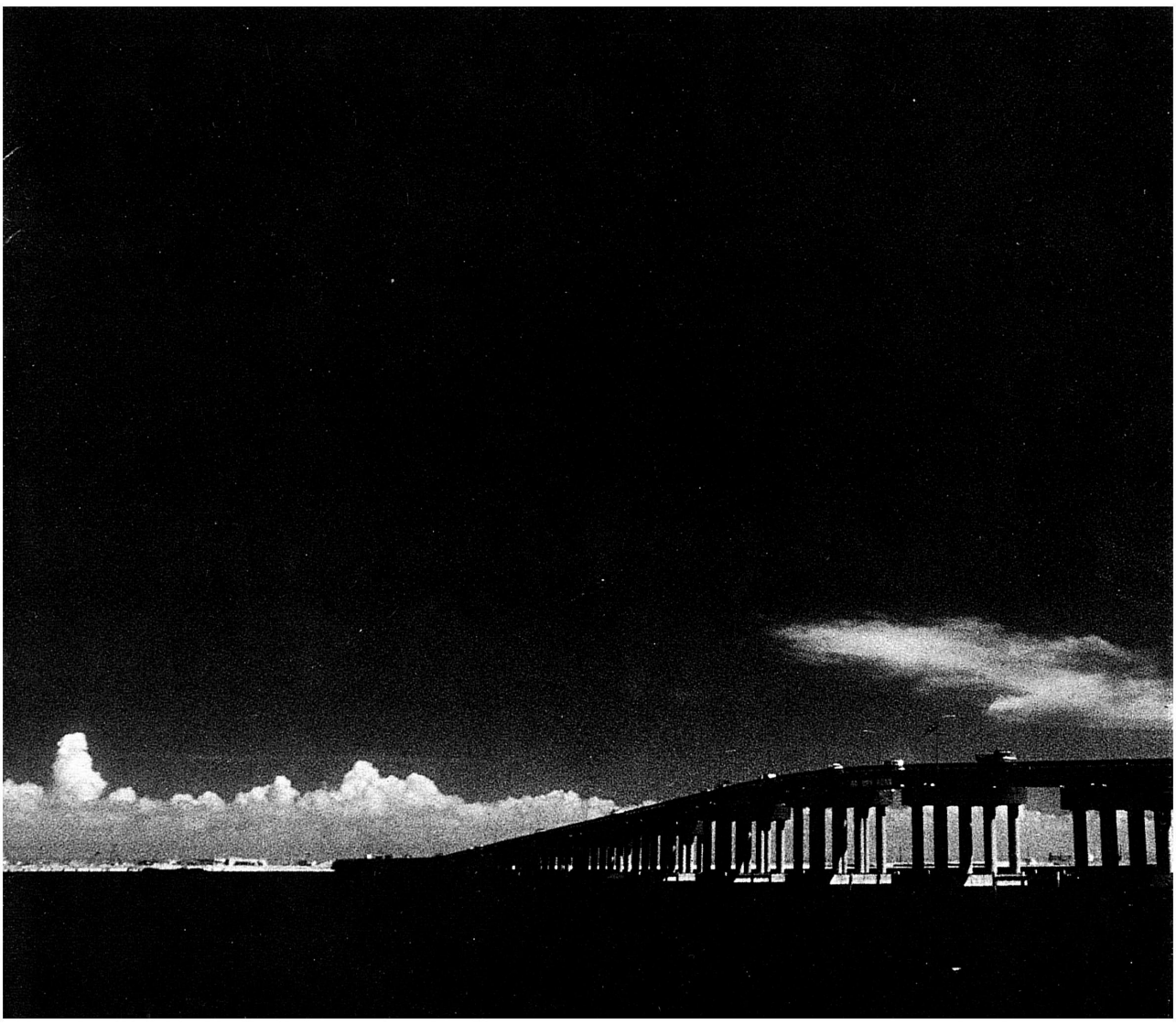
ファインダーを見て合わせたフォーカシングリング上の距離目盛を赤点にまでズラして撮影します。そのため補正が必要です。

たとえば、5mの位置にある被写体の普通の撮影の仕方は①のようですが、赤外線写真の場合は②のようになります。

赤外用黒白フィルムを使用した場合は、必ず赤フィルターを使用します。また、露出決定の方法は一般の写真撮影とは異なりますので、フィルムの使用説明書に従ってください。

また、最近発売されたカラー赤外線写真フィルムの場合は黄色フィルター（ラッテン12）をつけますが、赤外マークに合わせる必要がなく、普通の撮影方法をとってください。「露出測定」は赤外フィルム各々の特性がありますのでフィルムの説明書にしたがったシャッタースピードと絞り値にセットして撮影を行なってください。





## キヤノン EF の主要性能

型 式：35mm フォーカルプレーンシャッター式一眼レフレックヌ AE カメラ

画面サイズ：24mm×36mm

レ ン ズ：FDレンズシリーズ (AE 撮影)  
FLレンズシリーズ (絞込み測光)

標準レンズ：キヤノンFD55mm F1.2 S.S.C.  
FD50mm F1.4 S.S.C.  
FD50mm F1.8 S.C.

ファインダー：ペンタゴナルダハプリズム使用、  
アイレベル式

ピントグラス：マイクロスプリットプリズムを  
路離計中央に配置，周辺マット面

視野の大きさ：上下92%，左右93%

倍 率：標準 50mmレンズ無限遠の場合  
0.82倍

視 野 情 報：絞り目盛 (FDレンズ取り付けに  
より自動セット式)，露出警告マーク，定  
点マーク (FLレンズ絞込み測光用)，シャ  
ッタースピード ( $B \cdot \frac{1}{1000} \sim 30$ 秒)

ファインダーアタッチメント：アングルファイ  
ンダー，マグニファイヤー，視度補正レン

ズ4種，アイカップ取付け可能

ミ ラ ー：ノンショッククイックリターンミ  
ラー (全反射) ミラーアップ固定装置付き  
シャッター：上下走行式メタルフォーカルプレ  
ーンシャッター

シャッター速度制御： $\frac{1}{1000} \sim \frac{1}{2}$  秒 (10段) と B は  
メカニカル制御

1～30秒 (6段) はエレクトロニク制御

シャッターダイヤル：巻上げ軸と同軸のダイヤ  
ル  $B \cdot \frac{1}{1000} \sim 1$  秒 (白字)，  
 $\frac{1}{125}$  (オレンジ)，2～30秒 (黄色)

ファインダー内の表示は  $B \cdot \frac{1}{1000} \sim 1$  秒 黒  
字，2～30秒 白抜き字

警告装置：1秒以下のスローシャッター作動  
時にバッテリーチェックの発光ダイオード  
が点滅し警告を発する

セルフタイマー：内蔵式 シャッターボタンで  
始動 時限約10秒，不用意にセルフタイマ  
ーがかからないロック機構付き 絞込み測  
光レバー兼用

露出調節機構：フィルム感度，絞り値に連動す



るシャッタースピード優先式 AE (FDレンズシリーズ使用) シリコンフォトセル受光素子使用の TTL 開放測光方式

FLレンズシリーズに対しては定点絞込み測光方式(絞込み測光レバーのロック可能)

**測光範囲:** ASA 100で

EV-2(F1.4・8秒)~EV18(F16 $\frac{1}{1000}$ 秒)連動範囲外に警告信号赤マークあり

**使用フィルム感度:** ASA 12~ASA 3200

**電源:** HD型水銀電池 (JIS規格1.3V) 2個使用

**AEロック機構:** 押しボタンによる絞りのロック機構組込み

**スイッチ類:** メインスイッチ (ON-OFF 切換え式), バッテリーチェック, NORMAL-FLASH の切換え式スイッチ

**シンクロフラッシュ:** X 接点  $\frac{1}{125}$  秒

**ソケット:** アクセサリーシュー部に直結接点 (CATS 接点) ボディ側面に JIS B 型ソケット (感電防止カバー付き)

**CATS:** オートリングおよびスピードライト

133D との組み合わせにより可能

**多重露出:** 巻上げ開始時多重露出ボタンを押すことにより可能, 反復操作可能  
多重露光時はフィルムカウンターは停止

**レンズマウント:** バヨネット式マウント

FD, FL, R 各レンズ取付け可能

**被写界深度確認:** レンズの絞目盛セット後絞込み測光レバーを押して行なう

**自動空送り装置:** フィルム装填時の空送り機構組込み (フィルムカウンター 1 より撮影)

**フィルム装填:** 巻戻レバークラック引上げによる背蓋開閉 フィルム装填は多スリットスプールによるイージーローディング

**フィルム巻上げレバー:** 1 作動120° 回転レバー, 小刻み巻上げ不可

**フィルム巻戻:** 巻戻しボタンおよびクラック操作, 巻戻しボタンは自動復帰式

**フィルムカウンター:** 順算式, 自動復元式

**パトローネ室:** フィルム面安定性向上のためのアゴ付きパトローネ室

**大きさ・重量:** 147×47.7×96mm 740g (ボディのみ)

## 附属品

1



### 1. アイカップ

カメラ購入時に付属しているもので、ファインダー部にはめ込みます。無駄な光をさえぎりファインダー内に神経を集中できるため、スナップ時などに便利です。

### 2. アングルファインダー A2型およびB型 胸高ルーペです。

接眼部に上方から差込んで使用し、上方および横位置にしてのぞきます。複写、接写撮影などに便利です。A2型は左右反対像の簡易型、Bは完全正立像の高級型です。

2



### 3. 視度補正レンズ(4種)

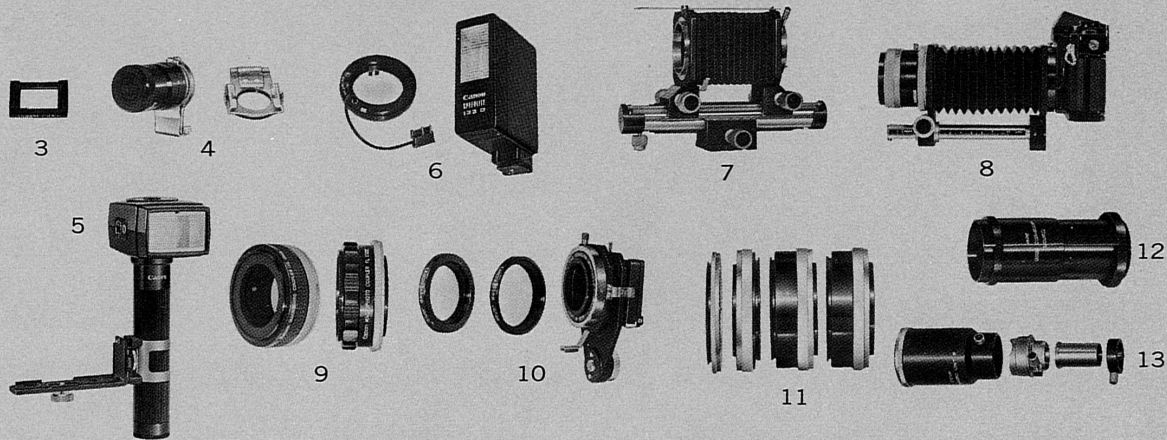
ジオプター	+1.5	0	-2.5	-4
適用度数	+22°~∞	-25°~∞	-10°~-20°	-7°~-11°

接眼部に取付けて近視や遠視の方が眼鏡なしに鮮明なファインダー像を見ることがができる補正レンズです。

カメラ店又はサービスステーションでご相談ください。

### 4. マグニファイヤーSとアダプター

ファインダーのピントガラスを拡大して見る直視ルーペです。アダプターと併用し、差込み型式ではね上げ可能ですから、ピント確認後視野全体を見る操作も楽にできます。



### 5. キヤノンスピードライト500A

高いガイドナンバー、28ミリレンズをカバーする照射角度の切換え、キヤノン独得のキヤッツなど、優れた機能を備えた高級ストロボです。

### 6. キヤノンスピードライト 133D, A2, B2セット

キヤッツのための専用ストロボです。発光間隔の短縮と性能の安定を主眼として設計されました。ガイドナンバーASA100 12~20(m), 40~60(ft) クリップ・オン・タイプ、単三乾電池4本使用マンガン電池で約80回、アルカリマンガン電池で約300回発光可能

### 7. ペローズFL

### 8. ペローズM

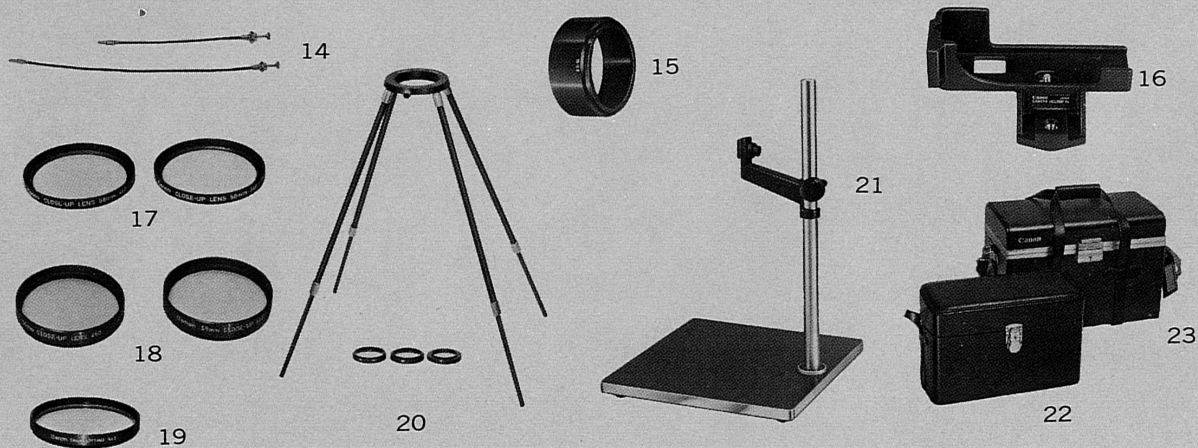
### 9. マクロフォトカプラー-FL55, FL58

### 10. スライドデュプリケーター(複製装置) (48mm, 55mmセット)

### 11. エクステンションチューブMセット (M5, M10, M20×2)

### 12. マイクロフォトフード (顕写フード、ペローズ併用による倍率可変)

### 13. フォトマイクロユニットF (顕写フード倍率固定)



14. キヤノンリリース30  
 キヤノンリリース50

15. レンズフードBS-55

16. カメラホルダーF-2

17. 58mmクローズアップレンズ  
 240, 450, 1800

18. 55mmクローズアップレンズ  
 240, 450

19. フィルター—55mm { Y1, Y3, OI, GI, RI, UV  
 スカイライト, ND4  
 // 58mm { ND8, CCA12, CCA8  
 CCA4, CCB12, CCB8  
 CCB4

20. ハンディスタンドF(一式)

21. コピースタンド4

22. ギャゼットバッグ4型

23. ギャゼットバッグG-1

## カメラの手入れ・保管，その他 使用後の手入れ

- ①最初にブロワーブラシで砂やゴミを吹き払います。
- ②レンズクリーナーでレンズを軽く拭き，柔らかい布で軽く拭きとります。  
特に海辺などで使用したカメラは，塩分がついていますので良く拭きとってください。

### カメラの保管

長期間使わないときはカメラから皮ケースをはずし，同時に水銀電池を抜きとり湿気のない場所に保管してください。またカメラは使用しなくても，時々シャッターを切るなどしてください。使用しないために故障の原因となることもあります。

またカメラは高温になるような場所に置かないでください。例えば車のリヤウインドーやトランクの中は60℃にもなります。

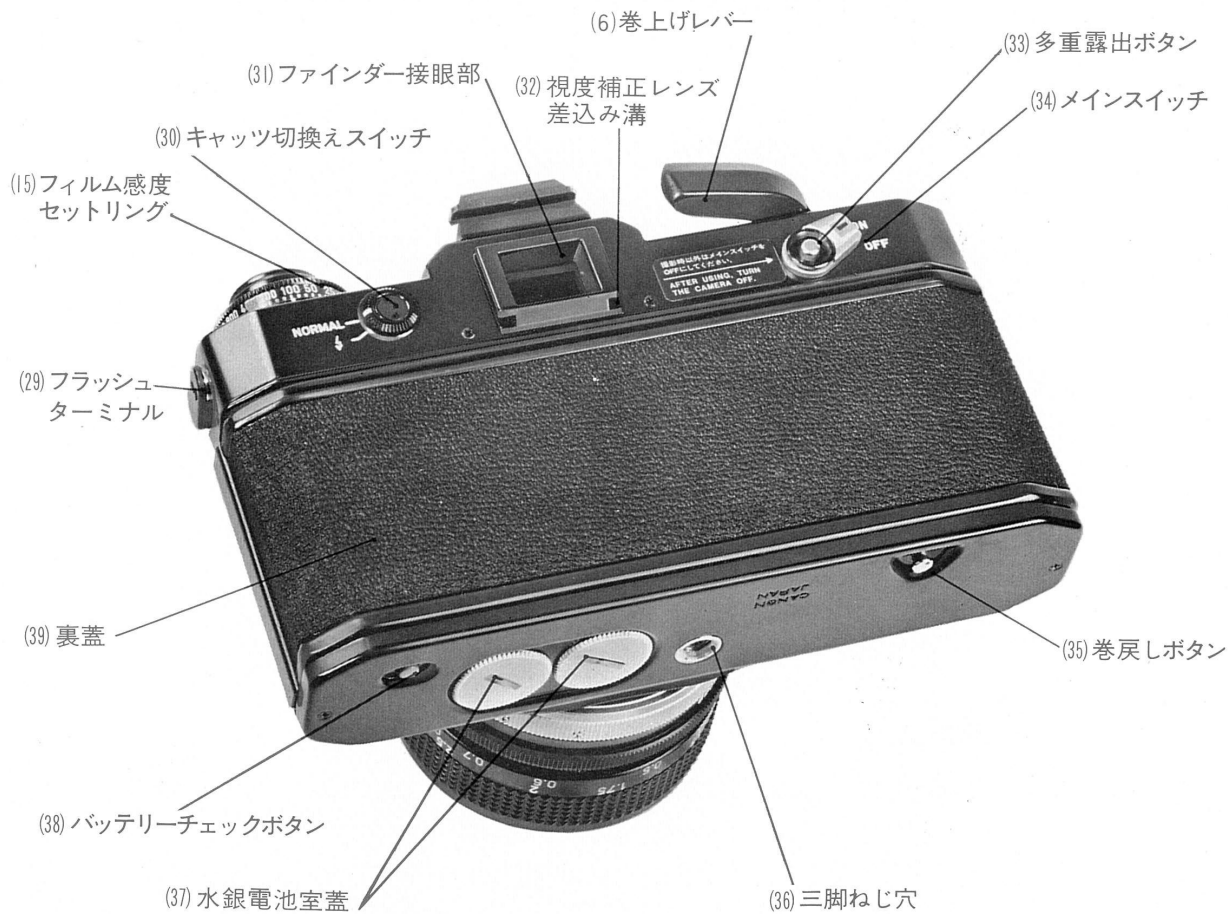
### ●紛失・盗難などの場合

すぐ警察へ届けると同時にカメラ店にご相談ください。カメラ店ではわずかの費用で全国のカメラ店へ連絡してくれます。そのため必ずボディとレンズの番号をメモしておいてください。

### その他

寒冷地では電池電圧が低下しますので，予備電池を体温などであたためて使用してください。

またカメラを寒いところから，暖かい室内に急に入れると水滴がつきますので，除々に環境温度に慣らしてください。



FD24mm F2.8S.S.C. 1/500 AE撮影 O1フィルター使用



# Canon

キヤノン株式会社  
キヤノン販売株式会社

〒108 東京都港区三田 3-11-28

カメラ販売企画部 ☎ (03)455-9353

## サービスステーション

札	幌・(060)	札幌市中央区北三条西4-1 (第一生命ビル4階) (011) 231-1313
仙	台・(980)	仙台市一番町1-1-30 (やまと生命仙台ビル6階) (0222) 66-4151-7
新	潟・(950)	新潟市東大通1-4-1 (マルタケビル7階) (0252) 43-2111
東	京・(104)	東京都中央区銀座5-9-9 (03) 573-7834
	(160)	東京都新宿区西新宿1-24-1 (第一生命ビル2階) (03) 348-4721
	(192)	八王子市八幡町11-2 (八王子繊維貿易館1階) (0426) 25-7511
横	浜・(231)	横浜市中区南仲通り4-39 (石橋ビル1階) (045) 211-1691
千	葉・(280)	千葉市千葉港4-3 (千葉県私学会館4階) (0472) 43-9648
大	宮・(330)	大宮市桜木町4-218 (共栄ビル2階) (0486) 41-9122
静	岡・(420)	静岡市鷹匠2-7-2 (静米会館1階) (0542) 55-2241
名	古屋・(450)	名古屋市中村区堀内町4-1 (毎日会館2階) (052) 581-3811
大	阪・(530)	大阪市北区梅田2 (第一生命ビル2階) (06) 341-9335
京	都・(604)	京都市中京区御池通間之町東入ル (東邦生命ビル5階) (075) 241-0216
金	沢・(920)	金沢市尾張町1-11-14 (住友生命ビル3階) (0762) 32-1711
高	松・(760)	高松市番町2-17-15 (第二讃岐ビル4階) (0878) 22-2044
岡	山・(700)	岡山市中山下1-9-40 (新岡山ビル5階) (0862) 22-8228
広	島・(730)	広島市小町2-30 (第二有菜ビル4階) (0822) 44-4615
福	岡・(812)	福岡市博多区博多駅前4-20-23 (セントラルビル1階) (092) 411-4172